

集学的がん治療サポートガイド

治療前から治療中、治療後まで、患者さんご家族をチームで支えます

がんの治療では、患者さん一人ひとりの病状や体の状態、ご希望などに合わせて、「手術・薬物療法・放射線治療」などを組み合わせて治療を行うことがあります。
このように、複数の治療方法を効果的に組み合わせて行うことを「集学的治療」といいます。当院では、患者さんが安心して治療を受けられるよう、治療前から治療中、治療後まで、多職種が連携してサポートします。

1. がん治療の流れ

がんの治療は、精密な検査や診断から始まり、治療中、そして治療終了後の定期的な経過観察まで、一貫した流れに沿って進められます。各段階で丁寧なサポートを行います。

段階	主な内容・サポート内容
① 検査・診断	血液検査、CT、MRI、病理検査などを行い、がんの状態（種類、大きさ、広がり、全身状態など）を詳しく調べます。
② 治療方法を共に考える	検査結果をもとに、がんの状態、年齢、体力、持病、これまでの治療、生活環境、患者さんの希望などを総合的に考慮して、最適な治療方針を医師と患者さんで相談しながら決定します。
③ 治療を受ける	病状に応じて、手術・薬物療法・放射線治療などの単独治療、またはこれらを組み合わせた「集学的治療」を開始します。
④ 治療中のサポート	治療が始まった後も、副作用や体調の変化を常に確認し、つらさを和らげながら、必要に応じて治療内容を調整して安全に進めます。
⑤ 治療後の生活へ移行	治療終了後は、体調をみながら少しずつ無理のない範囲で、普段の仕事や家事などの生活へと戻していきます。
⑥ 定期的な診察・検査	治療終了後も、体調の変化や再発の有無、治療の遅発的な影響などを確認するため、定期的に血液検査や画像検査などによるフォローアップを行います。

2. 集学的治療の柱と組み合わせ

がん治療の3大療法である「手術」「薬物療法」「放射線治療」にはそれぞれ特徴があり、病状や患者さんの状態に合わせて最適に組み合わせられます。

治療方法	概要と治療の役割
手術	手術によってがん病巣を直接切り取り、体から取り除く外科的治療です。がんの種類や病状に応じて、体への負担が少ない術式を含め適切な方法を検討します。
薬物療法	抗がん薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬、ホルモン療法薬などのお薬を内服または静脈注射などで使用し、がんを小さくしたり、増殖を強力に抑えたりする治療です。全身に作用するため、微小ながんにも有効です。
放射線治療	高エネルギーの放射線がん病巣にピンポイントで照射し、がん細胞にダメージを与えて小さくしたり、増殖を抑えたりする局所治療です。体を切らずに治療できる特徴があります。

■ 治療の組み合わせ（集学的治療）の例

がんの種類や進行度、患者さんの体力や年齢、臓器機能などに応じて、次のような組み合わせで治療が行われます。順番や組み合わせは医師と相談し、最も安全で効果的な計画を決定します。

組み合わせパターン	治療のねらいと具体例
薬物療法 → 手術 → 薬物療法	術前に薬物療法でがんを小さくし、手術で完全切除を目指した後、再発予防のため術後にさらに薬物療法を追加する計画です。
手術 → 薬物療法	手術で目に見えるがんを切除した後、目に見えない微小ながんを死滅させ、再発を予防するために術後薬物療法を行います。
手術 → 放射線治療	手術で取り切れなかった可能性のある微小ながんや、周囲への再発を予防するために、手術後に局所へ放射線を照射します。
薬物療法 + 放射線治療	放射線と薬物療法を同時に行うことで、お互いの効果を高め合い、切除が困難な部位のがんに対して治療効果の最大化を図ります。

3. 治療を始める前の「身体と生活」の準備

治療を安全かつ予定通りに進めるためには、治療開始前から心身のコンディションを整えておくことが極めて重要です。以下に挙げる準備を、できることから始めていきましょう。

準備項目	具体的な対策と心がけ
食事・栄養の維持	治療に耐えられる体力を保つため、できるだけ普段通りの適切な食事をとり、体重の減少を防ぐことを心がけましょう。食欲が出ない、体重が急激に減るなどの心配があれば管理栄養士による相談も可能です。
お薬の確認	現在使用しているすべてのお薬（他院の処方薬、市販薬、サプリメント、健康食品等を含む）を医療スタッフへ必ずお知らせください。自己判断で中止や増減を行わず、指示に従ってください。
歯・お口の中のケア	化学療法や放射線治療などでは、副作用として口内炎や口内感染が起こりやすくなります。治療前からいねいなブラッシング等で口腔内を清潔に保ちましょう。必要に応じ、開始前に歯科受診を案内します。
禁煙の徹底	喫煙は、手術後の肺合併症（肺炎など）のリスクを大幅に高め、手術の傷の治りを遅らせる原因になります。治療を最も安全に進めるために、今すぐ禁煙しましょう。
日頃の体調管理	十分な睡眠と休養をとり、過度な疲労を避けて体調を整えましょう。万が一、治療前に発熱、せき、下痢など普段と異なる感染症状等がある場合は、すぐに医療スタッフにお知らせください。

4. 治療中の生活：つらさのコントロールとサポート

治療中は、治療そのものの効果だけでなく、副作用や患者さんの毎日の体調をきめ細かく確認しながら、安全に進めます。「治療」→「効果確認」→「副作用・体調確認」→「治療調整」のサイクルを回すことで、無理なく最適な治療を行えます。

【我慢せずにお伝えいただきたい症状】

「痛い」「気持ちが悪い（吐き気など）」「食べられない」「とても体が重く疲れる」「手足がしびれる」「眠れない」などの症状は、決して我慢する必要はありません。お気軽に医療スタッフへお知らせください。

【治療中の様々な「つらさ」も多方面からサポートします】

がん治療のつらさは、身体的な症状だけではなく、以下の項目についても、我慢せずいつでも相談いただけます：

- ・痛みや吐き気などの身体的症状／・食欲低下や食事、栄養の心配／・不安、イライラ、気分の落ち込み
- ・仕事と治療の両立に関する悩み／・医療費など経済的な心配／・ご家族の精神的負担・サポート
- ・脱毛や爪の変化など外見（アピアランス）の変化

※治療が終わるのを待たずに、治療と並行してつらさを和らげる「緩和ケア」や支援を行います。

5. 治療後の生活と定期的な経過観察

治療が終了しても、すぐに以前と全く同じ体調に戻るとは限りません。体調をみながら少しずつ普段の生活へ戻しましょう。また、治療終了後も再発の有無や治療による影響を確認するために、定期診察と画像・血液検査等による経過観察を継続します。

生活のポイント	具体的な工夫と経過の確認
食事の工夫	食欲がない場合は一度に無理に食べようとせず、食べられるものを少量ずつ、小分けにしてとるなどの工夫が効果的です。
適度な運動	体調や回復状況に合わせて、散歩やストレッチなどの軽い運動から少しずつ生活の中に取り入れていきましょう。
休養の確保	治療後は疲れやすさが残ることがあります。身体からのサインを感じたら無理をせず、早めに休む習慣をつけてください。
仕事・家事の両立	治療前のペースにすぐ戻す必要はありません。周囲の協力を得ながら徐々に再開し、心配な場合はいつでもご相談ください。
定期検査の継続	治療が終了した後も「定期診察」→「血液検査・画像検査（CTやMRIなど）」→「体調・再発の有無の確認」を行います。状況に応じて地域のクリニックや病院と連携し、継続的なサポートを行います。

【重要】すぐに医療機関にご連絡・ご相談いただきたい症状

治療中や治療後に、以下のような症状がみられた場合は、我慢せずに速やかにご連絡・ご相談ください：

- ・発熱（37.5℃以上など）／・息苦しさ／・強い痛み／・繰り返す激しい嘔吐や下痢／
- ・食欲がなく食事や水分が全くとれない／・出血が止まりにくい／・急激な体調の悪化

「病院に電話していいのかな？」と迷う場合でも構いません。遠慮なくご相談ください。

※治療によって注意すべき具体的な症状や連絡基準は異なります。担当の医療スタッフから事前に説明された個別の基準がある場合は、そちらの指示を最優先してください。

患者さんをご家族を「チーム」で支えます。一人で悩まずにご相談ください。

がんの集学的治療では、主治医だけでなく、看護師・薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカー・相談支援担当者などの専門スタッフが連携して、患者さんをご家族が治療前から治療中、治療後まで安心して療養生活を送れるよう、一貫して支援します。